

エボラ出血熱対策に関する WHO ミッションへの日本人専門家参加の概要

参加する専門家：(独) 国立国際医療研究センター国際感染症センター
国際感染症対策室医長 加藤康幸医師

訪問予定先：リベリア

参加期間：平成 26 年 5 月 3 日～24 日 (22 日間)

目的：エボラ出血熱対策に関する WHO ミッションに専門家として参加し、現地の疾病発生及び対策状況等について調査及び評価を実施するとともに、必要に応じ助言を提供する。

西アフリカにおけるエボラ出血熱の発生状況：

＜ギニア＞

○4 月 26 日現在、ギニアでは臨床例 224 名（検査確定者 121 名）のうち、143 名が死亡。

○保健医療従事者 25 名（検査確定例 19 名）の感染疑いあり、16 名死亡（確定例 12 名）。

＜リベリア＞

○本年 3 月 13 日から 3 月 24 日までに臨床例 35 名（検査確定者 6 名）が報告された。

○現時点での最終検査確定例の発症日は 4 月 6 日。

＜シエラレオネ＞

○4 月 24 日現在、98 名が検査されたが、いずれも陰性であった。

過去の実績：平成 12 年にウガンダにおいてエボラ出血熱の流行が発生した際、WHO の要請を受けて、厚生労働省は、3 回にわたり計 5 人(延べ 6 人)の専門家を派遣しています。また、平成 24 年にウガンダにおいてエボラ出血熱の流行が発生した際、WHO の要請を受けて、厚生労働省は計 1 人の専門家（加藤康幸医師）を派遣しています。

参考（厚生労働省検疫所ホームページ）：

・エボラ出血熱

<http://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name48.html>